

札幌市立藻岩中学校校歌の由来

昭和 24 年 4 月 1 日、札幌市立藻岩中学校として独立認可されたのを受けて、昭和 25 年 11 月 20 日、教室増築工事を落成し、藻岩中学校として開校記念式典並びに校舎落成式、祝賀会が開催された。

子の開校記念式典並びに校舎落成式挙行を好機として、それまで八垂別尋常小学校、戦時中の国民学校時代と歌い継がれてきた校歌に代えて、新しく藻岩中学校の校歌を作成することとなった。

作詞を札幌在住の詩人 飯田廣太郎 氏に委嘱し、できあがったこの詩に曲をつけるため、当時北海道学芸大学助教授であった千葉日出城 氏に作曲を委嘱した。このような経緯で完成したのが藻岩中学校校歌である。

校 歌		
飯田 廣太郎 作詞		
千葉 日出城 作曲		
一	二	三
藻岩の緑 かげ深く	豊平川の 水清く	明るき庭に 肩を組み
風さわやかに わたる朝	星美しく かかるころ	学びの道を たゆみなく
希望に燃ゆる 窓あけて	平和の調べ たたえつつ	文化の光 仰ぎつつ
たてるは 藻岩中学校	幸ある夢を むすぶなり	楽しく進まん 若人われら

札幌市立藻岩中学校校章の由来



- 稜線は、藻岩山をかたどり自然の恵みと不動の心をあらわす。
- 桜は、校庭の大樹をかたどり、学校と郷土の歴史と心をあらわす。
- 波形は、豊平川の清流をかたどり、躍動の力をあらわす。

藻岩山と豊平川の清流、そしてそれまで使用されていた桜の図案を組み合わせで作られたのが現在の藻岩山の校章である。